

# 横浜市磯子区精神障害者生活支援センター 平成21年度 事業報告書

## I 事業実施状況

平成21年度は、生活支援センターが求められている3つの機能を重点に、計画に沿って事業を実施した。

- ① 生活相談（日常生活に関する問題・課題を解決する支援）
- ② 生活支援（生活への直接的サポート）
- ③ 地域連携・地域交流（地域のネットワーク構築）

### 1 実施事業

#### （支援基盤の整備）

精神に障害のある人が地域で安心できる生活を保障するために、生活支援センターがその基盤を整えて、日常生活を送るために必要な相談や情報の提供のほか活動拠点の確保に努めた。

また、横浜市における一時相談機関として機能した。

面接相談、電話相談、訪問相談などを実施して多くの相談を受け、支援を行ってきた。

とりわけ具体的な支援が継続して必要な人には、個別支援計画書を作成し、職員が代わっても一貫した支援ができるよう工夫をして、シフト制職場の弊害をなくすようにした。

#### (1) 面接相談

ご利用者は様々な不安や悩みを抱えているが、それを一人で抱えていることが多い。幅広い相談に応じて課題解決のための支援を実施した。

年間実績 4,291件          目標設定 3,000件（達成率 143%）

#### (2) 訪問同行

ひきこもりなど来館困難な人や単身生活をしている人の生活状況の確認など、社会参加や自立支援の立場から訪問活動を実施した。その結果、来館できるようになった人、自らの状況を話せるようになった人、また、受診が必要な人への同行支援など実施できた。

年間87件の訪問を実施

#### (3) 電話相談

ご利用者は必ずしも来館できる人とは限らないので、地域生活の維持のためにも電話による相談に適切な支援を心掛けた。

年間利用実績 12,576件      目標設定 10,500件      （達成率 120%）

#### (4) いつでも利用できる居場所の提供

ご利用者がいつでも気軽にセンター内で過ごせるように居場所の提供をしており、様々な利用の仕方を楽しんでいただいている。娯楽設備の利用や、書籍の閲覧もできている。

年間利用実績 9,777名      1日平均 27.7名      目標設定 10,500名（達成率 93.1%）

#### (5) 精神科・内科の専門医相談

精神科 36回（月3回）実施      相談者 35名

内科 12回（月1回）実施      相談者 11名

医師の所見を相談支援に役立てている。

- (6) 入浴サービス  
生活支援のメニューとして主に単身生活をしている人の利用が多かった。  
年間利用実績 841名 1日平均2.4名 目標設定 700名 (達成率 120%)
- (7) 夕食サービス  
夕食はおいしいとの評価をいただいた (アンケート調査を10月に実施)。  
年間利用実績 4,698食 (1日平均13.3食) 目標設定 5,000食 (達成率 94%)
- (8) ランドリー利用サービス  
主に単身生活をされている人が利用した。  
年間利用実績 159名 (1日平均0.5名) 目標設定 100名 (達成率 159%)
- (9) 昼食サービス  
昼食サービスについては、毎月1回、昼食会プログラムとして実施した。  
希望者はボランティアさんの協力のもとに調理を体験した。  
年間 11回実施 参加人数 51名 + ボランティア23名参加  
クリスマス会 参加人数 13名 + ボランティア 3名参加
- (10) 創作活動の実施  
ア 書道教室 12回実施 40名参加  
イ 工作教室 リース作り 5名参加
- (11) インターネット利用サービス  
年間利用実績 240名 (1日平均 0.7名)

## 2 精神に障害のある人の社会復帰、自立および社会参加のための事業の実施

- (1) 就労支援事業の実施  
平成21年度登録者8名。職場実習者1名。  
職場訪問などして実習を行ったのは1名で、就労には至らなかった。  
毎月就労相談日を設けていたが後半は相談者がいなかった。

## 3 精神に障害のある人たちが地域で行う自主的な活動に対する支援

- (1) 利用者ミーティング  
利用者ミーティングなどを通して、利用者の自主的活動の実現を支援した。  
11回実施 42名参加
- (2) 楽器を鳴らす日  
ご利用者のうち、楽器に興味を持っている人たちの交流を支援した。  
年間13回実施 63名参加 + ボランティア15名
- (3) 手芸工作  
ア 麻ひも工作 (アクセサリー、ミサンガ、携帯ストラップ作り)  
ご利用者の発案で実施。毎回人気を博した。発案者はこれがきっかけで自信を持てるようになり就労に結び付いた。  
年間8回実施 50名参加

## イ アートしま専科

ご利用者の発案で1月から実施。貼り絵と文字でみんなで共同で作成。

年間4回実施 22名参加

## (4) 清掃ボランティア

ご利用者の発案でセンター入口から最寄りの信号までの坂道を清掃

年間5回実施 23名参加

## II 地域における協働・連携の推進

地域の様々な機関と5つの基本方針、①日常的で具体的な連携、②顔の見える連携、③相互にメリットを共有できる連携、④新たな支援サービスを生み出す連携、⑤協働を前提とする連携にそって事業を実施した。

- 1 区役所、区社会福祉協議会との共催で当事者・家族・市民向けに、啓発のための講座を開催した。

家族教室 年間6回実施 参加人数118名

- 2 開所3周年感謝祭 11月3日(火) 250名参加

【内容】1F 親子リトミック、フラダンス、

記念講演会(講師:横浜市総合保健医療センター診療部医長 古川 良子)

3F ミニコンサート(ハーモニカ演奏、オカリナ演奏、声楽とピアノ、ハンドベル…社協ボランティア、精ボ会、作業所シャローム他)

お点前(シャローム)他

- 3 作業所などと協働してプログラムを計画し実施しました。

茶道教室 2回 2名参加 (於シャローム)

- 4 地域に貢献し、機関の支援機能を高めるため、精神障害者施設の運営委員会参加の他、知的身体を対象とした地域自立支援協議会などに参加した。

(1) 地域活動支援センター運営委員会 12回出席

(2) 地域自立支援協議会 6回開催 6回出席

(3) 磯子区精神保健福祉関係機関連絡会 1回出席

(4) 発達障害児者ネットワーク連絡会 2回出席

(5) 地域活動ホーム運営委員会 2回出席

- 5 ボランティアの育成や啓発活動も積極的に行い、ボランティアの育成とその活動・交流を実施した。

(1) ボランティア養成講座 3回開催 22名参加

サマーボランティア講座 3回開催 3名参加

(2) 昼食会 11回開催 23名参加

(3) 開所3周年感謝祭では社協や精ボ会等の多くのボランティアさんの協力をいただいた。  
ボランティア 40名参加

(4) 精ボ会の総会及びクリスマス会に参加

## 6 運営連絡会の開催

地域を代表する皆様、地域の精神障害関係機関、社会福祉協議会、行政等から参加を頂き運営についてのご意見をいただいた。

## 7 地域で開催される行事への参加

初詣に利用者と参加し、地域との交流に努めた。

初詣 (屏風ヶ浦浅間神社) 8名参加

## III 利用者に対する事故対策、緊急対策などの安全管理

事故の発生を未然に防ぐため、日ごろからの安全管理意識を高め、想定される事故に対して、安全管理マニュアルに基づき、休館日の職員会議において全職員に啓発をした。

また屏風ヶ浦地域地域ケアプラザと合同で防災訓練を実施した。

### 1 職員会議において、ひやりハットの報告を含め安全管理には十分気をつけるように確認をした。

### 2 9月28日 合同防災訓練実施(屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)

利用者13名参加 職員5名参加

火災予防についての訓話、防火訓練ビデオ映画による啓発、毛布による簡易担架の作り方、担架による救出訓練(消防署隊員3名参加)、その後利用者さんとの避難訓練

### 3月31日 合同防災訓練(屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同) 避難訓練

利用者9名参加 職員5名参加

## IV 個人情報管理の取り組み

個人情報保護・管理の徹底を図った。磯子区生活支援センターも「財団の保有する個人情報の保護に関する規程」を基に、個人情報の適切な取り扱いには十分な注意を払って対処した。また、職員の研修も行っており、個人の権利・利益の保護に努めた。

## V 人材育成・資質向上

生活支援センター職員は常に精神に障害のある人の置かれている現状に問題意識を持ち、自らの資格を十分発揮できるように資質の向上に努めた。また、資質の向上を目的に、内部研修のほか各種研修には全職員が参加できた。

そのほか、大学、専門学校から精神保健福祉士などの人材養成目的で、実習生を受け入れた。

4回受け入れ 県立保健福祉大 1名 12日間、東洋英和女学院大 1名 12日間

YMCA福祉専門学校 1名 16日間、横浜市立大 4名 2日間

## VI 苦情の解決

苦情については、設置してある「ご意見箱」に寄せられているが、毎回掲示板に苦情や要望の内容とその回答を掲げた。

また、直接の苦情については面接を通して課題の解決を図った。

当財団には苦情解決規程があり、業務に対する苦情については規程に則り報告した。

苦情報告件数 1件

苦情解決件数 1件

## Ⅶ 利用拡大のための広報計画

毎月「生活支援センターだより」を発行し、市内の関係機関（医療機関、作業所、グループホーム、民生委員など）に配布してセンター利用拡大を図った。

また、センターだよりの他、機関紙「うえるかむ」を発行し、町内会や関係機関（医療機関、作業所、グループホーム、ケアプラザ、地区センター、コミュニティーハウス等）に配布し、地域への普及啓発を行った。

## Ⅷ 家族会との交流支援

精神障害者の家族の日常生活に関する相談及び家族間の交流に対する支援として、引き続き磯子区家族会との交流を行って、ご家族の抱える課題や不安を受け止め、適切な支援や情報の提供を実施した。

なぎさ会（家族会） 5回 職員7名参加

## Ⅸ 「うつ状態の人」の家族支援及び地域支援事業

磯子区からの受託事業として、「うつ状態の人」のご家族を対象に、家族セミナーを開催した。また、講演会等を開催し、地域住民への普及啓発を行った。

- 1 うつ病「家族セミナー」 年間 8回開催 参加人数 199名
- 2 うつ病「家族交流会」 年間 12回開催 参加人数 62名
- 3 地域普及啓発ケアプラ巡業 年間 4箇所実施 参加人数 79名

## X その他

- 1 来館が遠のいている人への声かけ

毎月の所内会議において「来館が遠のいている人」の抽出をして、電話で近況を伺った。来館に繋がった人も多い。

合計8回抽出 フォロー件数 244名（状況確認できた件数 167名 来館件数 31名）

- 2 来館ご利用者の身近な支援者として、気軽に声かけられる関係作りを心がけた。

「一声運動」として職員がフロアに出て来館ご利用者に声かけをした。

また、フロアに麦茶コーナーとしてカウンターバーを設け、それを媒体として、職員に気軽に声かけができるようにした。

- 3 掲示している情報や備えてある情報の他、求めに応じて情報を収集し、提供に努めた。

平成21年度指定管理料精算内訳

施設名 磯子区生活支援センター

(単位:円)

	当初予算額	執行額	差引増△減
磯子区生活支援センター運営指定管理料収入	45,845,000	45,845,000	0
磯子区生活支援センター管理運営事業費	45,845,000	44,661,171	1,183,829
1 人件費	37,992,000	38,385,673	▲ 393,673
職員給料支出	9,692,000	10,821,304	▲ 1,129,304
職員手当支出	7,090,000	6,926,561	163,439
法定福利費支出	4,244,000	4,013,444	230,556
嘱託賃金支出	12,827,000	12,535,543	291,457
パート賃金支出	3,737,000	2,550,720	1,186,280
非常勤医師賃支出	252,000	231,000	21,000
労務厚生費支出	150,000	109,246	40,754
退職給付引当資産取得支出	0	1,197,855	▲ 1,197,855
2 施設管理費	4,837,000	4,333,644	503,356
光熱水費支出	2,070,000	1,598,755	471,245
委託費支出	2,767,000	2,734,889	32,111
3 施設運営費	3,386,000	2,051,864	1,334,136
会議費支出	0	33,920	▲ 33,920
旅費交通費支出	100,000	75,010	24,990
広報費支出	0	70,350	▲ 70,350
通信運搬費支出	469,000	316,099	152,901
消耗品費支出	792,000	307,193	484,807
消耗備品費支出	300,000	69,800	230,200
修繕費支出	150,000	89,670	60,330
印刷製本費支出	300,000	115,256	184,744
賃借料支出	335,000	285,060	49,940
保険料支出	220,000	94,000	126,000
諸謝金支出	200,000	135,332	64,668
租税公課支出	20,000	20,000	0
負担金支出	200,000	48,525	151,475
手数料支出	0	120	▲ 120
訓練材料費支出	300,000	391,529	▲ 91,529
4 入浴サービス等実費徴収額	▲ 370,000	▲ 110,010	▲ 259,990
差引(精算額)	0	1,183,829	▲ 1,183,829